

名前：

皆士人が知っているとおりに、インターネットの  
使用が普及したので、いろいろなインフォ  
メーションが見つけられるし、ニュースも  
インターネットですぐ見えるようになった。  
あるニュースに関わる文章のみならず、テ  
レビで見えるような映像もネットで出て来た。  
新聞と雑誌と違い、インターネットのウェブ  
ページとして、あるサイトとほかのいろん  
なサイトが結び付けられる。こうして、あるニ  
ュースを読めば、それに関わるニュース、記  
事、図などのリンクもすぐ手に入るようにな  
った。情報処理から言って、それは多分、  
今の世界で最も便利で優れたものとも言える。  
そういった理由で、多くの人は新聞と雑誌  
など、「古い」メディアはもう必要がない  
と主張している。それに対して、決して少な  
くない人々は「新聞や雑誌などのメディアは  
内容がよくて、歴史のあるものなので、捨て  
てはいけない。」という反論を持っていて、  
ミスが多くて、言葉の使用が混乱している

いうインターネットの欠点を評判する。  
新聞や雑誌が必要かどうか、この問題につ  
いて、僕は立場を取らないようにしたと考  
えている。歴史的な面から言えば、新聞や雑誌  
など主に文字を用いて記事を記して、大衆に  
インフォメーションを提供するメディアの普  
及は、義務教育の発達に従うことではないで  
しょうか？言い換えれば、19、20世紀から義  
務教育が世界各国で次々と始まり、そのため  
大衆が言葉を読めるようになった。従って、  
19、20世紀は文学、特に小説作品が異彩を放  
った時代とも言える。つまり、文字の時代で  
ある。しかし、映画、テレビ、インターネッ  
トなどが発明されて幅広く使われた今の世界、  
文字は必ず唯一の手段ではない。  
紙のデザインとか、文章の美しさとか、新  
聞や雑誌などのメディアは、もし本当に捨て  
られたら、僕はもっと残念<sup>ゾ</sup>と思う。様々なイ  
ンフォメーション、色々な選ばれる媒体、こ  
れこそこの時代に一番素晴らしいことではない

でしょうか。けれども、もし新聞や雑誌が時  
代から遠い残れば、時代の流れのため、それとても  
自然なことではないでしょうか。